

Asia Indicators

発表日: 2024年3月22日(金)

オーストラリアの雇用環境は幅広く堅調さを維持(Asia Weekly(3/18~3/22))

~ニュージーランドの輸出は幅広い分野で底入れの動きを強めている様子が見えてくる~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
3/18(月)	(シンガポール)2月非石油輸出(前年比)	▲0.1%	+4.7%	+16.7%
	(中国)2月小売売上高(年初来前年比)	+5.5%	+5.2%	+7.4%
	2月鉱工業生産(年初来前年比)	+7.0%	+5.0%	+6.8%
	2月固定資産投資(年初来前年比)	+4.2%	+3.2%	+3.0%
	(マレーシア)2月輸出(前年比)	▲0.8%	+2.4%	+8.7%
	2月輸入(前年比)	+8.4%	+7.8%	+18.7%
	(香港)2月失業率(季調済)	2.9%	--	2.9%
3/19(火)	(オーストラリア)金融政策委員会(政策金利)	4.35%	4.35%	4.35%
3/20(水)	(インドネシア)金融政策委員会(7日物リバースレポ金利)	6.00%	6.00%	6.00%
	(台湾)2月輸出受注(前年比)	▲10.4%	+1.3%	+1.9%
3/21(木)	(ニュージーランド)10-12月実質GDP(前年比)	▲0.3%	+0.1%	▲0.6%
	(オーストラリア)2月失業率(季調済)	3.7%	4.0%	4.1%
	(台湾)金融政策委員会(政策金利)	2.000%	1.875%	2.000%
	(香港)2月消費者物価(前年比)	+2.1%	--	+1.7%
3/22(金)	(ニュージーランド)2月輸出(億NZドル)	58.9	--	48.2
	2月輸入(億NZドル)	61.1	--	59.0
	(台湾)2月失業率(季調済)	3.40%	--	3.39%

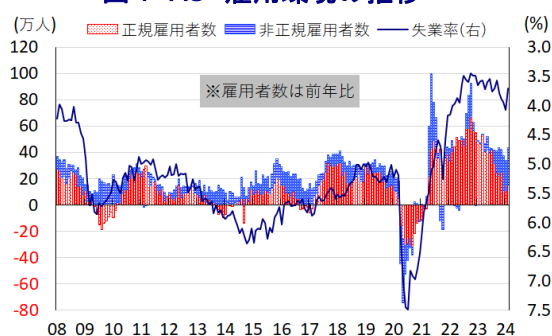
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[オーストラリア]~雇用形態や地域を問わず全体的に雇用を取り巻く環境は堅調な推移をみせる様子を確認~

21日に発表された2月の失業率(季調済)は3.7%となり、前月(4.1%)から0.4pt改善して5ヶ月ぶりの低水準となっている。失業者数は前月比▲5.2万人と前月(同+2.1万人)から5ヶ月ぶりの減少に転じている上、雇用形態別でも非正規雇用に対する求職者数(同▲0.4万人)のみならず、正規雇用に対する求職者数(同▲4.8万人)もともに減少するなど幅広く減少する動きが確認されているほか、中期的な基調も減少傾向に転じるなど調整の動きを強めている。一方の雇用者数は前月比+11.6万人と前月(同+1.5万人)から2ヶ月連続で拡大しており、雇用形態別でも非正規雇用者数(同+3.8万人)のみならず正規雇用者数(同+7.8万人)もともに拡大している上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。地域別では、過去数ヶ月に亘って調整の動きを強めてきた最大都市

シドニーを擁するニュー・サウス・ウェールズ州や第2の都市メルボルンを擁するヴィクトリア州、第3の都市ブリスベンを擁するクイーンズランド州で底入れする動きがみられるほか、南オーストラリア州や西オーストラリア州など幅広い分野で底打ちする動きが確認されるなど、全般的に雇用を取り巻く環境が堅調に推移している様子がうかがえる。このように雇用環境の堅調さが続いていることを反映して労働力人口は前月比+6.4万人と前月（同+3.6万人）から2ヶ月連続で拡大するとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど労働市場への参入意欲が高まっているほか、こうした動きを反映して労働参加率も66.7%と前月（66.6%）から0.1pt上昇して過去最高水準で推移している。労働時間も大幅に上昇する動きが確認されており、物価高と金利高の共存状態が長期化しているものの、足下の労働需給は依然としてひっ迫した展開が続いているものと捉えられる。

図1 AU 雇用環境の推移

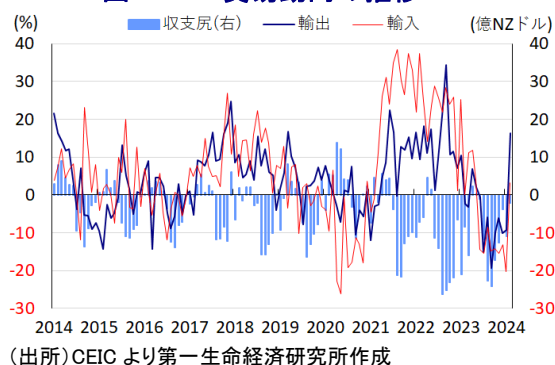


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[ニュージーランド]～主力の輸出財である乳製品や食肉中心に幅広い分野で輸出は底入れの動きを強める～

22日に発表された2月の輸出額は前年同月比+16.2%となり、前月（同▲9.3%）から9ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+11.3%と前月（同+2.8%）から2ヶ月連続で拡大するとともに、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている様子がうかがえる。財別では、主力の輸出財である乳製品や食肉のほか、木製品の輸出も底入れの動きを強めているほか、機械製品関連や果物、魚介類などの輸出も幅広く堅調な推移をみせている。国・地域別では、最大の輸出相手である中国向けのほか、隣国のオーストラリア向け、日本向け、米国向け、EU向けなど幅広く底堅い動きをみせる一方、ASEANなどアジア新興国向けで底入れの動きに一服感が出るなど対照的な動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比+3.3%となり、前月（同▲20.2%）から9ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じている。前月比も+15.2%と前月（同▲4.7%）から3ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底打ちの動きを強めている様子がうかがえる。財別では、機械製品関連や電気機械関連のほか、日用品など幅広い分野で輸入が底打ちしていることが影響している。結果、貿易収支は▲2.18億NZドルと前月（▲10.89億NZドル）から赤字幅は縮小している。

図2 NZ 貿易動向の推移



[台湾]～輸出受注は主力の輸出財である半導体などで底入れに一服感も、鉱業や化学関連で堅調な推移～

20日に発表された2月の輸出受注額は前年同月比▲10.4%となり、前月（同+1.9%）から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も▲1.06%と前月（同+19.51%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向を維持するなど底堅さがうかがえる。財別では、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、IT関連や電気機械関連などで下振れする動きがみられる一方、鉱物資源関連や化学関連などに底堅い動きがみられるなど分野ごとに跛行色が出ている様子がうかがえる。国・地域別では、最大の輸出相手である中国本土向けが大きく下振れしているほか、ASEAN向けなどアジア新興国向けも同様に大きく下振れする一方、日本向けやEU向けは対照的に底堅く推移しており、受注動向を下支えしている様子がうかがえる。

22日に発表された2月の失業率（季調済）は3.40%となり、前月（3.39%）から0.01pt悪化している。失業者数は前月比+0.2万人と前月（同▲0.1万人）から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底打ちの兆しが出ている。新卒を中心に底打ちの兆しがうかがえるほか、非自発的失業を中心に底打ちの動きを強める様子がうかがえる。一方の雇用者数は前月比+0.1万人と拡大の動きが続くも前月（同+0.5万人）から拡大ペースは鈍化しており、中期的な基調も拡大ペースが鈍化するなど勢いに陰りが出ている。建設業で底堅い動きがみられるものの、製造業で頭打ちの動きが強まっているほか、サービス業における雇用拡大の動きに陰りが出ていることも足かせとなっている。

図3 TW 輸出受注の推移

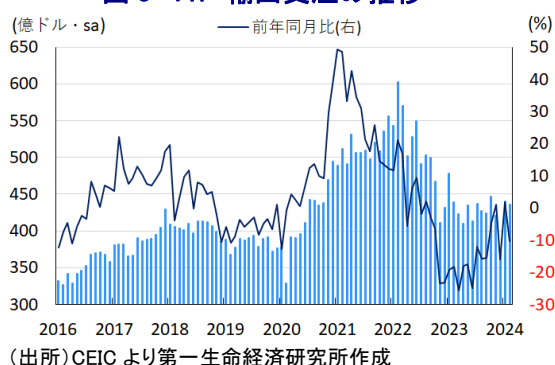
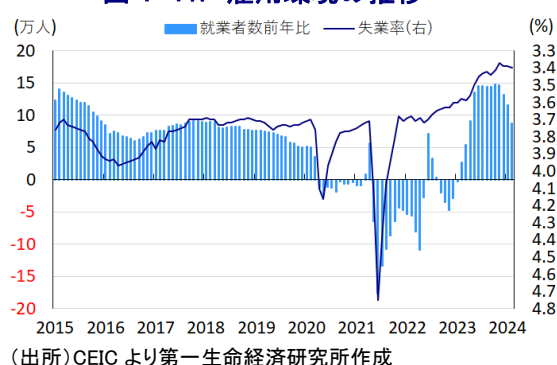


図4 TW 雇用環境の推移

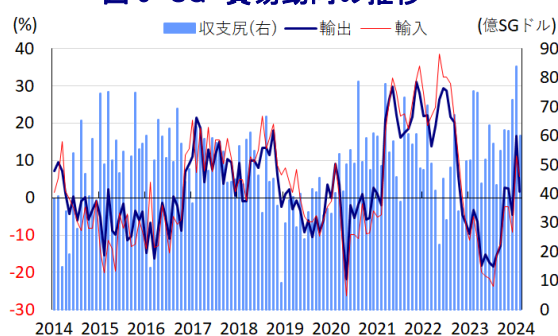


[シンガポール]～輸出は頭打ちの動きを強める一方、輸入は対照的に底入れの動きを強めて貿易黒字は縮小～

18日に発表された2月の非石油輸出額は前年同月比▲0.1%となり、前月（同+16.7%）から2ヶ月

ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も▲4.81%と前月（同+2.20%）から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている様子がうかがえる。財別では、主力の輸出財である電動バルブなどの電気機械関連や半導体など電子部品関連のほか、化学製品関連など幅広い分野で輸出に下押し圧力が掛かる動きがみられる。原油関連を併せた総輸出額も前年同月比+1.7%と前月（同+16.6%）から伸びが鈍化しており、前月比も▲1.7%と前月（同+5.3%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせるなど頭打ちの動きを強めている。一方の輸入額は前年同月比+5.6%となり、前月（同+11.2%）から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+1.0%と前月（同+5.3%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど輸出と対照的に底入れの動きを強めている。財別では、機械関連や化学関連などの輸入は軒並み下振れする動きが確認される一方、原油や鉱物資源関連の輸入が拡大して輸入全体を押し上げている。結果、貿易収支は+59.92億SGドルと前月（+83.89億SGドル）から黒字幅が縮小している。

図5 SG 貿易動向の推移

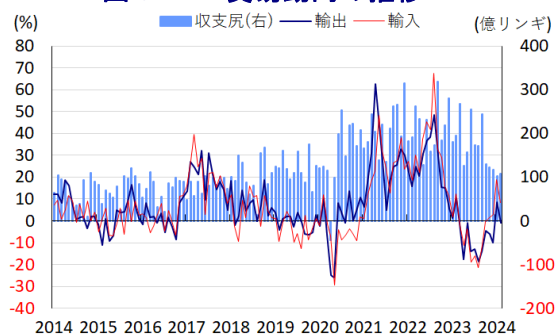


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]~輸出入ともに一進一退の動きをみせるも、中期的な基調は拡大傾向が続くなど底堅さが続く~

18日に発表された2月の輸出額は前年同月比▲0.8%となり、前月（同+8.7%）から2ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比は▲3.1%と前月（同+16.0%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向を維持している。中国本土向けは比較的堅調な動きをみせているほか、米国向けにも底堅さがうかがえるものの、ASEANなど周辺国向けや日本向け、EU向けなどは軒並み下振れしており、輸出全体の重石となる動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比+8.4%となり、前月（同+18.7%）から伸びが鈍化している。前月比も▲1.2%と前月（同+9.4%）から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど輸出同様に底堅い動きがみられる。消費財関連の輸入に底堅さがうかがえるものの、資本財関連や中間財関連の輸入に下押し圧力が掛かる動きが輸入全体の重石となっている。結果、貿易収支は+108.72億リングと前月（+101.73億リング）から黒字幅が拡大している。

図6 MY 貿易動向の推移



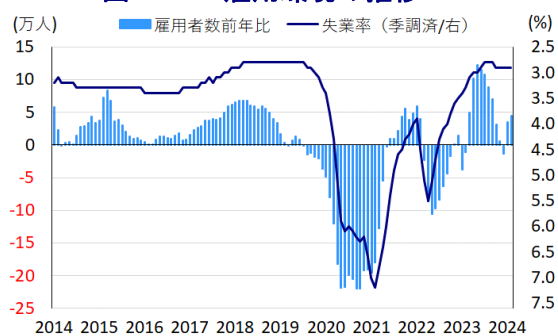
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港]～雇用に底堅い動きがみられる一方、春節連休にも拘らず財価格を中心にデスインフレ圧力がくすぶる～

18日に発表された2月の失業率(季調済)は2.9%となり、前月(2.9%)から5ヶ月連続の横這いで推移している。失業者数は前年同月比▲1.3万人と32ヶ月連続のマイナスで推移しているものの、前月(同▲1.6万人)からマイナス幅は縮小するなど底打ちの兆しが出ている様子がうかがえる。一方の雇用者数は前年同月比+4.5万人と前月(同+3.5万人)から拡大ペースが加速しており、底入れの動きを強めている。分野別では、サービス業において回復の動きが遅れているものの、製造業や建設業などで雇用が底入れの動きを強める様子がうかがえるなど、雇用を取り巻く環境は幅広く改善している。雇用環境の改善の動きを反映して労働力人口は前年同月比+3.1万人と前月(同+1.9万人)から拡大ペースが加速するなど底入れの動きを強めているほか、不完全雇用者数も同▲1.0万人と前月(同▲1.3万人)から減少ペースが鈍化するなど、雇用を巡るミスマッチの解消が進んでいる様子もうかがえる。

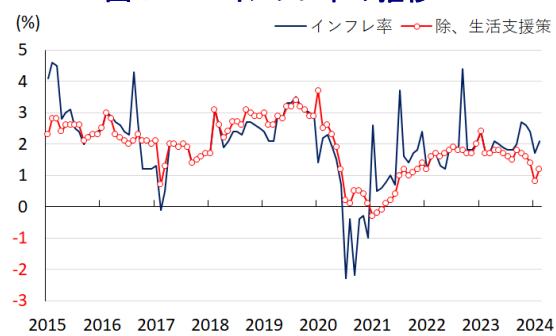
21日に発表された2月の消費者物価は前年同月比+2.1%となり、前月(同+1.7%)から加速して2ヶ月ぶりに2%を上回る伸びとなっている。前月比も+0.47%と前月(同▲0.09%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、昨年末以降の国際原油価格の底入れの動きを反映してエネルギー価格に上昇圧力が掛かるとともに、春節(旧正月)連休による需要拡大の動きも重なり食料品価格も上昇の動きを強めるなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が強まっていることが影響している。なお、香港では2007年以降断続的に公営住宅を対象とする賃料減免措置をはじめとする生活支援策が実施されており、その影響を除いたベースでも当月は前年同月比+1.2%と前月(同+0.8%)から伸びが加速している。前月比も+0.37%と前月(同▲0.09%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じており、春節連休の時期が重なった影響で観光関連をはじめとするサービス物価に押し上げ圧力が掛かる動きがみられる一方、幅広く消費財価格に下押し圧力が掛かるなどデスインフレ圧力がくすぶる動きがみられるなど、中国本土と同様にデスインフレ傾向が続いていると捉えられる。

図7 HK 雇用環境の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図8 HK インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。